

D高等学校での取り組みについて

1. 授業をユニバーサルデザイン化して学びやすくする

教員の悩み

- ・落ち着きのない生徒が多い
- ・どうも「発達障がい」らしい生徒がいる
- ・授業に集中できない
- ・基礎学力が定着しない

授業のユニバーサルデザイン化

生徒に学びやすい環境を整え、分かりやすい授業を工夫する

- ①発達障がいの生徒が在籍しているという認識
- ②集中して学べる環境づくり、ルールづくり
- ③視覚情報を優先させた授業を行う

障がいのある生徒に学びやすい授業は、すべての生徒に学びやすい

学びやすい環境づくり

集中できる環境と決まったルールづくり

- ①教室を綺麗にする
- ②掲示物は、四カ所をきちんととめる
- ③黒板には、授業以外のことは書かない
- ④連絡は、決まった場所を書く

分かりやすい授業の工夫

「聞く」情報より、「見る」情報で理解させる

- ①授業準備の方法や、やり方を明示する
- ②導入を工夫して、気持ちよいスタートをきる
- ③今日学習することを書き、授業の流れを示す
- ④指示は、一つ一つ出す
- ⑤指示や説明の際は、指で示す
- ⑥黒板の使い方を工夫し、字を大きく行間をとる
- ⑦机間巡視をして、誉めたり、励ましたりする
- ⑧視覚情報や作業・運動動作を活用する

2. 「学び直し」で中学校の復習をする

「学び直し」

高校の学習を始める前に、
中学校の内容を授業で復習する

- ① 市販の教材プリントを使用
- ② 英語・数学・国語の3教科で実施
- ③ 1学期中間考査までは、授業1時間を使用、1学期期末考査までは、授業の最初に実施

教材プリントの特徴

- つまづきが分かりやすいステップで構成
- はぎとり式のプリント形式
- 学習記録表に取り組み状況を記入
- 取り組んだプリントはバインダーに綴じて管理
- できた手ごたえを実感できる級認定
基礎編（10～7級）
標準編（6～4級）
挑戦編（3～1級）

「学び直し」で中学校の復習をする

<生徒の反応>

- 中学の勉強で忘れたところが思い出せるので役立つ
- 英語は中学の最初からつまづいた教科なので、最初の基礎から勉強し直す事ができ、役に立った
- 基礎からやることができたり、ヒントがあつて問題を解いたりするので、何回も行っていると頭に入ってくる
- 教材プリントをやって授業を受けると内容が分かった
- × 内容が簡単だったので、できればもっと難しい内容を出題してほしいと思った

3. 「評価の可視化」で1時間毎の努力を認める

評価の可視化

生徒の努力や学習の成果を「目に見える形として示す」ことで、

1時間毎の充実感・達成感を与える取り組み

- ① 授業準備ができていれば、ハンコを押す
- ② 授業の宿題や問題が正しく解答できていれば○を付ける
- ③ 授業終了時に、ノートがうまくまとめられているか、A、B、Cの評価を付けて回る
- ④ 授業を受ける態度を点数化する

<生徒の反応>

- | | | |
|---|-----|---------------------|
| <input type="radio"/> 良いことなのでこのまま続けて欲しい | 65% | ・自分はこれだけやれたという証明になる |
| <input type="radio"/> やってもらわなくてもどちらでも良い | 35% | ・がんばれば、その分評価してもらえる |
| <input type="radio"/> やめたほうがよい | 0% | ・ノートがしっかり書けるようになった |

<教員から見た成果>

【国語】

- 基礎基本を再認識させることで、段階的に語彙力をつけることができる

【地理公民】

- こまめに評価することで、到達点が明確になり、生徒が目前の目標に意欲を示す
- 本読み、発言、黒板消し等、自主的に行ってくれる生徒が増えてきた

【数学】

- ノートをしっかり書くようになった
- 生徒のやる気を生み、欠席が少なくなった

【理科】

- 生徒は気にかけて、良い意味での刺激になっている

【英語】

- 自分の取り組み状況が良く分かる
- スタンプをもらおうという気持ちで取り組みが向上する
- 授業開始時の着席率が高くなる

<課題>

- 授業時間が5～10分とられてしまう ● 集計がとても大変で手間がかかる
- 一人でできる生徒と、やる気のない生徒の差が開いてしまう
- ハンコさえ押してもらえればよいという生徒もいる
- 評価項目以外は軽視する傾向もある

4. 「加点法の評価」で継続する姿勢を身に付ける

加点法による評価

生徒の努力や学習の成果を「出来たら認め、加算する」

プラス思考での評価の取り組み

- ① 出来なかったことを減点するのではなく、出来たことを加点する評価方法
- ② 最初の持ち点は0点からスタート、努力した分だけ点数が増える
- ③ ノート提出がされていれば、プラス〇点
- ④ 小テストや普段の努力を加算する

<生徒の反応>

- | | |
|--------------------|-----|
| ○良いのでこのまま続けて欲しい | 75% |
| ○やってもらわなくてもどちらでも良い | 20% |
| ○やめたほうがよい | 5% |

- ・自分はこれだけやれたという証明になる
- ・頑張ればその分評価してもらえる
- ・自分がどれだけできているか分かりやすい
- ・忘れ物がなくなる、必ず板書するようになった
- ・ノートをしっかり書けるようになった

<教員から見た成果>

【国語】

- 授業にきちんと参加している子でテストの点数が伸びない子にも、成績が上がるチャンスがある

【地理公民】

- テストで点が取れなくても毎日の授業でやるべきことをしっかりやっていたら、単位はとれるし成績も上がるという意識を持つようになった

- テストや授業での発言などでなかなか評価されない生徒の頑張りも点数としてプラス評価できる

【数学】

- 提出物も加算するので、課題を出すようになった

【理科】

- やらされている感じはなく、自主的な取り組みとなる

- 授業をしっかり受け、取り組みができることの必要性(大切さ)が、生徒にはある程度浸透してきた

【英語】

- 取り組みがよければ、良い評価になるということが分かり、取り組みが向上している

<課題>

- つい、減点法のニュアンスになってしまう
- 「この教科はこの程度でいいや」と思っている生徒にハツパをかけることが難しい
- 加点する以上に減点したい生徒がいるが、一律に加点しているので、そういう子も点数がふえてしまう